

北海道教育大学教育学部教員養成課程の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

(平成29年3月28日制定)

(平成30年12月25日改正)

(令和4年3月24日改正)

(令和5年2月16日改正)

「北海道教育大学憲章」に示す「グローバルな視野と高度なコミュニケーション力を含む幅広い教養と、現代の学校教育現場の多様な課題に対応できる鋭敏な人間観察力、豊かな人間性並びに専門的能力を培い、北海道の地域特性を生かした教育実践を創造的に展開する教師を養成する」という本学の教育に関する目標に基づき策定された、本学教育学部教員養成課程の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するため、以下の方針で教育課程を編成し、実施します。

【教育課程の編成の方針】(平成30年度以前の入学者)

科目区分		目的	
教養科目	共通基礎科目	教員養成課程の学生が共通に身に付けるべき基礎的な知識・技能の修得を目的とする。具体的には大学での学びに必要な知見及び技能の修得と、教師に求められる基本的・社会的知識を獲得するとともに、心身の健康維持、コミュニケーション能力の修得を目的とする。	
	基礎教養科目	人間としての在り方や生き方及び社会との関わり方への洞察などを通じて人間性の基礎を培うとともに、人文科学、社会科学及び自然科学の基礎となる知識や方法論を修得し、自ら課題を発見し解決する力の基礎を培うことを目的とする。	
	現代的教養科目	大学で修得した知識を統合し、現代社会の諸問題を学問横断的に俯瞰することができる能力を培うとともに、問題解決に際し必要な他者との協働・共存の在り方について学ぶことを目的とする。	
専門科目	教員養成コア科目	実践教育科目	「教職の意義に関するもの」「教育の基礎理論に関するもの」「教育課程及び指導法(教科の指導法を除く)」「生徒指導、教育相談及び進路指導に関するもの」など、学校教育に関わる基礎的な知識や理論を修得するとともに、多様な教育課題を捉え、適切に対応できる力の素地を培うことを目的とする。
		教育実践フィールド科目	教育フィールドでの体験を通じて実践力の基礎を培うとともに、関連する講義・演習によって修得した基礎理論・技能を活用し、体験を省察する力及び課題を解決する力を育成することを目的とする。
		教科指導科目	教科内容研究科目をもとに、教育実践フィールド科目での活用を視野に入れ、授業構成や指導方法、児童生徒理解など、教科指導に必要な基礎理論・技能を修得することを目的とする。
		教科内容研究科目	小学校又は中学校の各教科の目的や児童生徒の発達特性を踏まえた教科内容の理解と、各教科内容を教えるのに必要な基礎的背景知識の系統的な理解を図ることを目的とする。
	専攻科目	教員養成コア科目を基盤として、教職生活全般にわたって自信を持って教育実践・教育研究を進めていくための土台となる能力を育成するため、特定の分野に関する専門性を高め自分の得意分野を確立することを目的とする。	
研究発展科目	専攻科目で身に付けた専門性を更に強化することで卒業研究を進めていく上での力量を高める。また、教養科目や教員養成コア科目を基盤とした専攻分野以外の発展的な学びを通じて教師としての教育実践上の視野を広げることを目的とする。		
卒業研究	専攻する分野の中に課題を設定し、これを主体的かつ計画的に探究する活動を通して、課題を分析し論理的に思考する力や総合的な視点から課題を捉えて思考する力を養うことで、教育現場の日常に生起する諸課題を解決するための基礎的研究能力を育成することを目的とする。		

【教育課程の編成の方針】(令和元年度～令和4年度の入学者)

科目区分		目的	
教養科目	共通基礎科目	ICT機器等を活用しながら大学での学びに必要な知識・技能を修得するとともに、教師に求められる基本的・社会的知識、倫理観、人権意識、心身の健康維持、コミュニケーション能力等の修得を目的とする。	
	基礎教養科目	人間としての在り方や生き方及び社会との関わり方への洞察などを通じて人間性の基礎を培うとともに、人文科学、社会科学及び自然科学の基礎となる知識や方法論を修得し、自ら課題を発見し解決する力の基礎を培うことを目的とする。	
	現代的教養科目	大学で修得した知識を統合し、現代社会の諸問題を学問横断的に俯瞰することができる能力を培うとともに、問題解決に際し必要な他者との協働・共存の在り方について学ぶことを目的とする。	
専門科目	教職課程コア科目	教科に関する専門科目	小学校又は中学校の各教科の目的や児童生徒の発達特性を踏まえた教科内容の理解と、各教科内容を教えるのに必要な知識や技能の系統的な理解を図ることを目的とする。
		教科指導科目	教科に関する専門科目をもとに、教育実践に関する科目や教育フィールド科目での活用を視野に入れ、授業構成や指導方法、児童生徒理解など、教科指導に必要な基礎理論と方法を修得することを目的とする。
		教育の基礎的理解に関する科目、道徳・生徒指導等に関する科目	学校教育に関わる基礎的な理論と方法を修得し、それらを活用することで多様な教育課題を捉え、適切に対応できる力の素地を培うこと、及び他の教職員や地域住民と協働して教育実践を展開する基礎を培うことを目的とする。
		教育実践に関する科目	大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を培うこと、及びその成果を省察し、教員になる上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを目的とする。
		教育フィールド科目	教育に関わる様々な場面での体験を通じて教育実践を展開する基礎を培うとともに、関連する講義・演習によって修得した基礎理論と方法を活用し、体験を省察する力及び課題を解決する力を育成することを目的とする。
	専攻科目	教職課程コア科目で修得した知識等を活用して特定の分野に関する専門性を高め、自分の得意分野を確立することを目的とする。	
研究発展科目		専攻科目で身に付けた専門性を更に強化することで、卒業研究を進めるための力量を高めること、及び専攻分野以外の発展的な学びを通じて教師としての教育実践上の視野を広げることを目的とする。	
卒業研究		自ら課題を設定し、情報を収集し、それを論理的に分析し、総合的に議論する力を養うことで、学校教育での諸課題を解決するための基礎的な研究能力を育成することを目的とする。	

【教育課程の編成の方針】(令和5年度以降の入学者)

科目区分		目的	
教養科目	共通基礎科目	ICT機器等を活用しながら大学での学びに必要な知識・技能を修得するとともに、教師に求められる基本的・社会的知識、倫理観、人権意識、心身の健康維持、コミュニケーション能力等の修得を目的とする。	
	基礎教養科目	人間としての在り方や生き方及び社会との関わり方への洞察などを通じて人間性の基礎を培うとともに、人文科学、社会科学及び自然科学の基礎となる知識や方法論を修得し、自ら課題を発見し解決する力の基礎を培うことを目的とする。	
	現代的教養科目	大学で修得した知識を統合し、現代社会の諸問題を学問横断的に俯瞰することができる能力を培うとともに、問題解決に際し必要な他者との協働・共存の在り方について学ぶことを目的とする。	
専門科目	教職課程 コア科目	教科に関する専門科目	小学校又は中学校の各教科の目的や児童生徒の発達特性を踏まえた教科内容の理解と、各教科内容を教えるのに必要な知識や技能の系統的な理解を図ることを目的とする。
		教科指導科目	教科に関する専門科目をもとに、実践・省察科目での活用を視野に入れ、授業構成や指導方法、児童生徒理解など、教科指導に必要な基礎理論と方法を修得することを目的とする。
		教育の基礎的理解に関する科目、道徳・生徒指導等に関する科目	学校教育に関わる基礎的な理論と方法を修得し、それらを活用することで多様な教育課題を捉え、適切に対応できる力の素地を培うこと、及び他の教職員や地域住民と協働して教育実践を展開する基礎を培うことを目的とする。
		実践・省察科目	教育に関わる様々な場면을体験し、関連する講義・演習によって修得した基礎理論と方法を基にした技術的・実践的な省察を通して、省察に必要な力や教科及び教職に関する専門的な知識等を実践で活かすための基礎を培い、実践上の自己の強みやよさ、課題を自覚するとともに、教師に必要な資質能力を獲得することを目的とする。
	専攻科目	教職課程コア科目で修得した知識等を活用して特定の分野に関する専門性を高め、自分の得意分野を確立することを目的とする。	
研究発展科目		専攻科目で身に付けた専門性を更に強化することで、卒業研究を進めるための力量を高めること、及び専攻分野以外の発展的な学びを通じて教師としての教育実践上の視野を広げることを目的とする。	
卒業研究		自ら課題を設定し、情報を収集し、それを論理的に分析し、総合的に議論する力を養うことで、学校教育での諸課題を解決するための基礎的な研究能力を育成することを目的とする。	

### 【教育課程の実施の方針】

- 教育課程の編成の方針に基づき、各科目の授業を具体的に展開するものとし、次に掲げる取組を実施します。
  - ・人間性の基礎を培い、倫理観・人権意識、主体的に考える力、創造する力を身に付けるため、アクティブ・ラーニングなどの手法を用いて、先進的な学問・科学の研究成果を踏まえた教育課程を実施します。
  - ・学際的な能力を身に付け、他者との協働・共存の在り方に深い認識のある教師を育てるため、専攻での系統的な学びに加え、課題解決能力の育成につながる学問横断的な学びを実施します。
  - ・現代の学校教育の多様な課題を理解し、学校外の関係者や地域住民と協働して適切に解決する能力を育むため、基礎的理論・方法の活用や、教育フィールドでの体験の省察、省察を通して見出した課題の協働的解決など、理論と実践を往還する学びを実施します。
  - ・順序性のある体系的な教育課程をカリキュラムマップ・カリキュラムツリー等で明示し、学生の主体的な学びを入学時から支援します。
  - ・各科目の授業計画(事前・事後の学習を含む。)や成績評価(評価方法、評価基準等)、関連科目等を明記した「シラバス」を作成し、学生に対して、履修登録前に明示することで、学生の主体的な学びを支援します。

### 【学修成果の評価の方針】

- 成績評価は、「北海道教育大学の成績の評価方法及び履修登録単位数の上限並びに修学指導等に関する取扱要項」による全学統一の取扱いに基づいて客観性・厳格性を確保します。成績評価は、講義、実験、実習、演習、実技等の授業形態に応じて、定期試験、課題レポート、発表及び討論等、適切な評価方法及び評価基準により、学修の成果を評価し、単位を与えるものとします。

#### 附 記

この方針は、令和5年4月1日から施行する。